

## NEWS RELEASE

goo リサーチ結果 (No.186)

「これからの IR 活動の方向性」に関する  
アンケート調査結果

～決算情報に表れない無形資産への関心高まる。

「ブランド・暖簾・伝統」、「知財・研究開発・技術力」、「人材の質」、「環境・CSR 対応」に注目～

## 調査結果について

## &lt;調査概要&gt;

1. 調査方法：「goo リサーチ」上のインターネット・アンケート画面での回答

2. 調査対象：「goo リサーチ」モニター

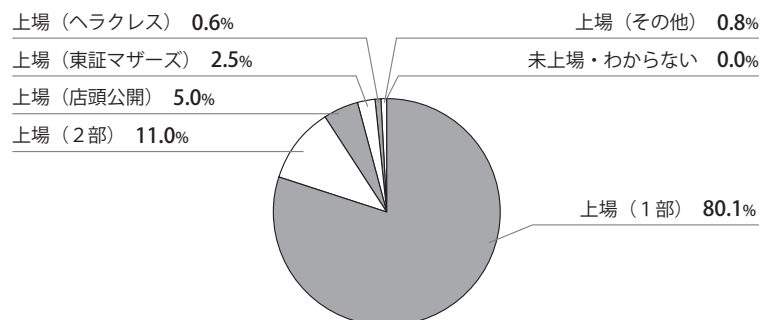
上場企業に勤務 かつ 以下の担当業務

○経営全般 ○広報宣伝 ○経営企画 ○経理・財務

または、役付役員の方

上場区分は、「1部」(80.1%)、「2部」(11.0%)、「店頭公開」(5.0%)、「東証マザーズ」(2.5%)、「ヘラクレス」(0.6%)、「その他」(0.8%)となっている。

全体		実数	%
01	上場 (1部)	290	80.1
02	上場 (2部)	40	11.0
03	上場 (店頭公開)	18	5.0
04	上場 (東証マザーズ)	9	2.5
05	上場 (ヘラクレス)	2	0.6
06	上場 (その他)	3	0.8
07	未上場	0	0.0
08	わからない	0	0.0



3. 調査期間：平成 21 年 10 月 26 日 (月) ～ 10 月 30 日 (金)

4. 総回答者数：362 名

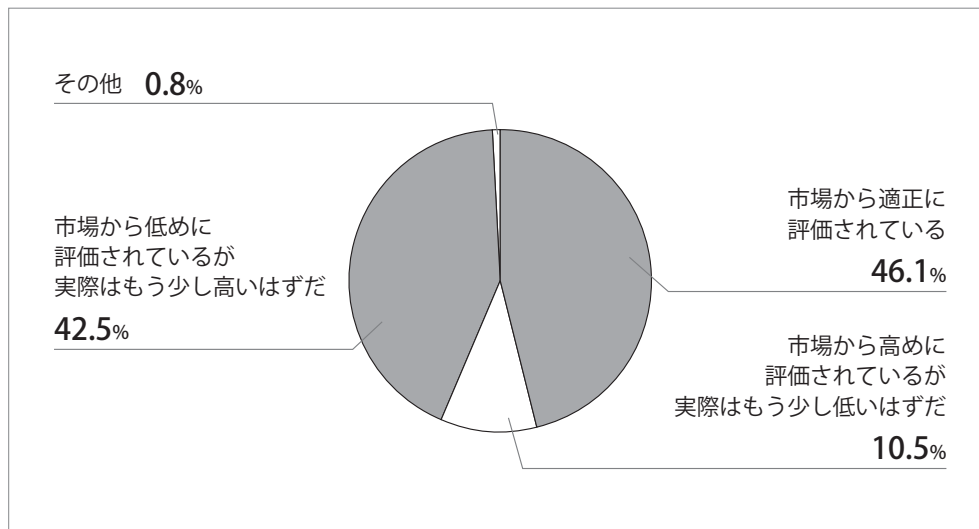
## 調査結果データ

## (1) 現在の自社の株価について、率直にどのように思われますか。(単一回答)

「市場から適正に評価されている」(46.1%) が最も多く、以下「市場から低めに評価されているが、実際はもう少し高いはずだ」(42.5%)、「市場から高めに評価されているが、実際はもう少し低いはずだ」(10.5%) の順となっている。

全体		実数	%
01	市場から適正に評価されている	167	46.1
02	市場から高めに評価されているが、実際はもう少し低いはずだ	38	10.5
03	市場から低めに評価されているが、実際はもう少し高いはずだ	154	42.5
04	その他	3	0.8

【図表 1】

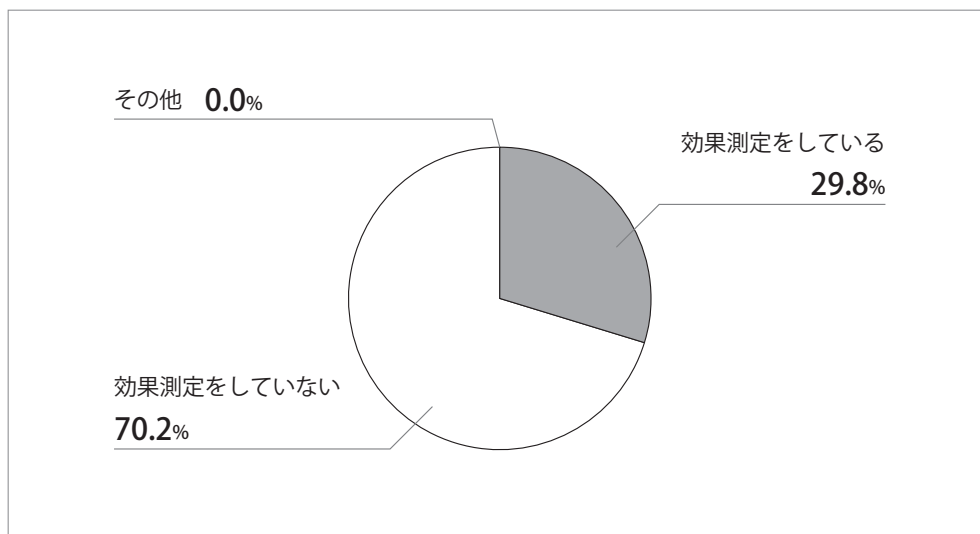


(2) 貴社ではIR活動について、どの程度の投入人員・費用に対して、どの程度の効果があったか、効果測定をしていますか。(単一回答)

「効果測定をしていない」(70.2%)、「効果測定をしている」(29.8%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	効果測定をしている	108	29.8
02	効果測定をしていない	254	70.2
03	その他	0	0.0

【図表2】

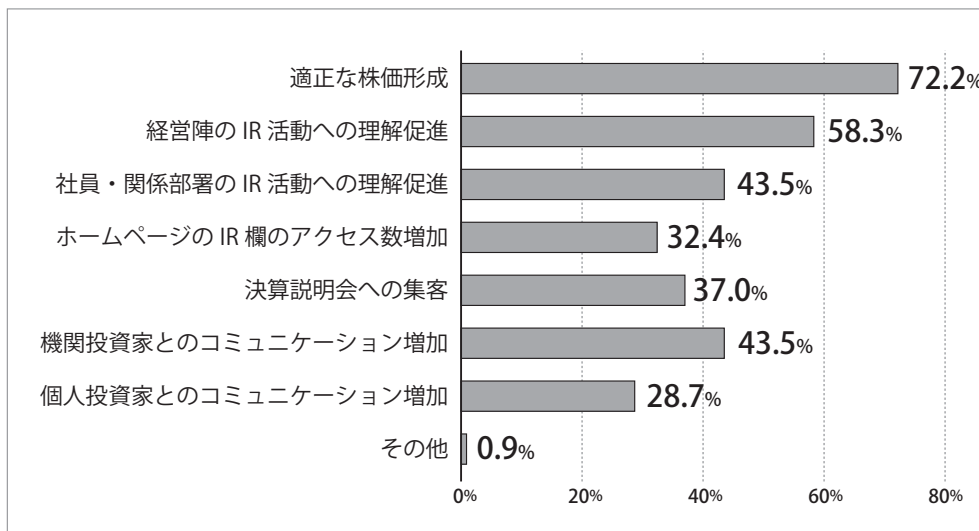


### (3) IR活動は、何をもちって効果があったとお考えですか。(複数回答)

「適正な株価形成」(72.2%)が最も多く、以下「経営陣のIR活動への理解促進」(58.3%)、「社員・関係部署のIR活動への理解促進」(43.5%)、「機関投資家とのコミュニケーション増加」(43.5%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	適正な株価形成	78	72.2
02	経営陣のIR活動への理解促進	63	58.3
03	社員・関係部署のIR活動への理解促進	47	43.5
04	ホームページのIR欄のアクセス数増加	35	32.4
05	決算説明会への集客	40	37.0
06	機関投資家とのコミュニケーション増加	47	43.5
07	個人投資家とのコミュニケーション増加	31	28.7
08	その他	1	0.9

【図表3】

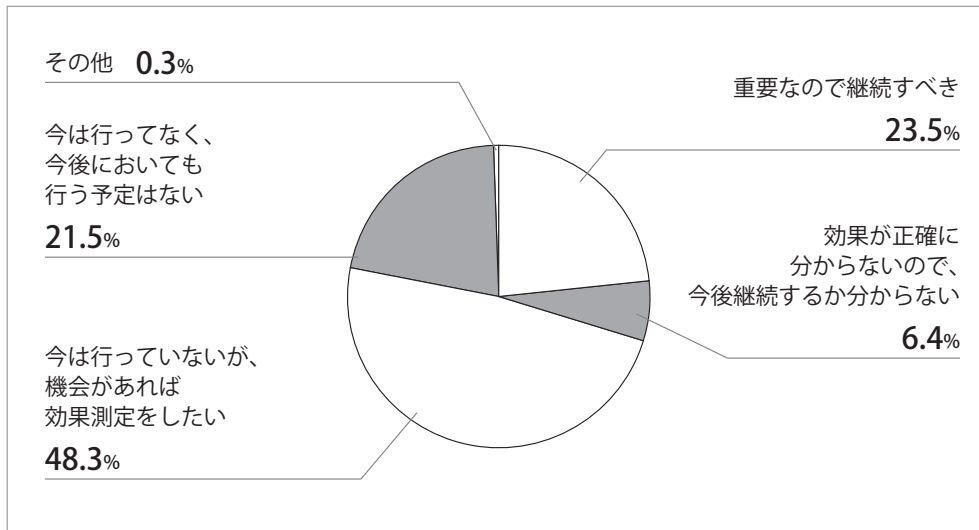


#### (4) IR活動の効果測定は今後どうしたいとお考えですか。(単一回答)

「今は行っていないが、機会があれば効果測定をしたい」(48.3%)が最も多く、以下「重要なので継続すべき」(23.5%)、「今は行ってなく、今後においても行う予定はない」(21.5%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	重要なので継続すべき	85	23.5
02	効果が正確に分からないので、今後継続するか分からない	23	6.4
03	今は行っていないが、機会があれば効果測定をしたい	175	48.3
04	今は行ってなく、今後においても行う予定はない	78	21.5
05	その他	1	0.3

【図表4】

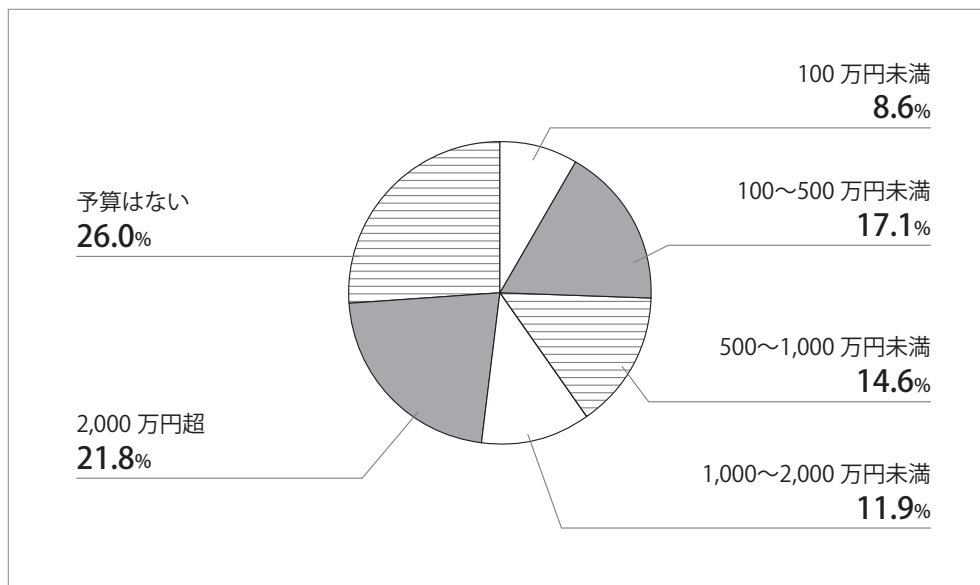


(5) 年間どの程度、IR活動への予算をお持ちですか。(単一回答)

「予算はない」(26.0%) が最も多く、以下「2,000 万円超」(21.8%)、「100～500 万円未満」(17.1%) の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	100 万円未満	31	8.6
02	100～500 万円未満	62	17.1
03	500～1,000 万円未満	53	14.6
04	1,000～2,000 万円未満	43	11.9
05	2,000 万円超	79	21.8
06	予算はない	94	26.0

【図表 5】

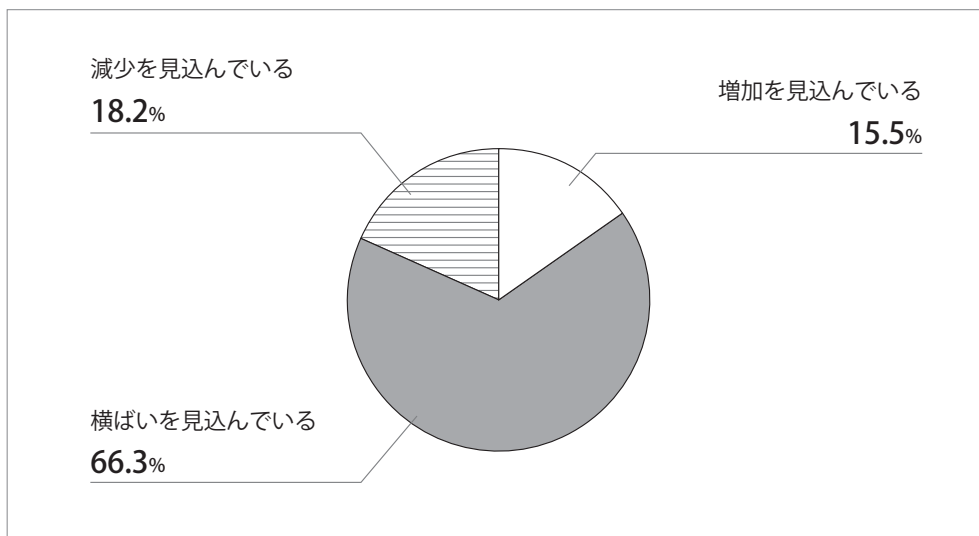


(6) 今後のIR活動の予算について伺います。(単一回答)

「横ばいを見込んでいる」(66.3%)が最も多く、以下「減少を見込んでいる」(18.2%)、「増加を見込んでいる」(15.5%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	増加を見込んでいる	56	15.5
02	横ばいを見込んでいる	240	66.3
03	減少を見込んでいる	66	18.2

【図表6】

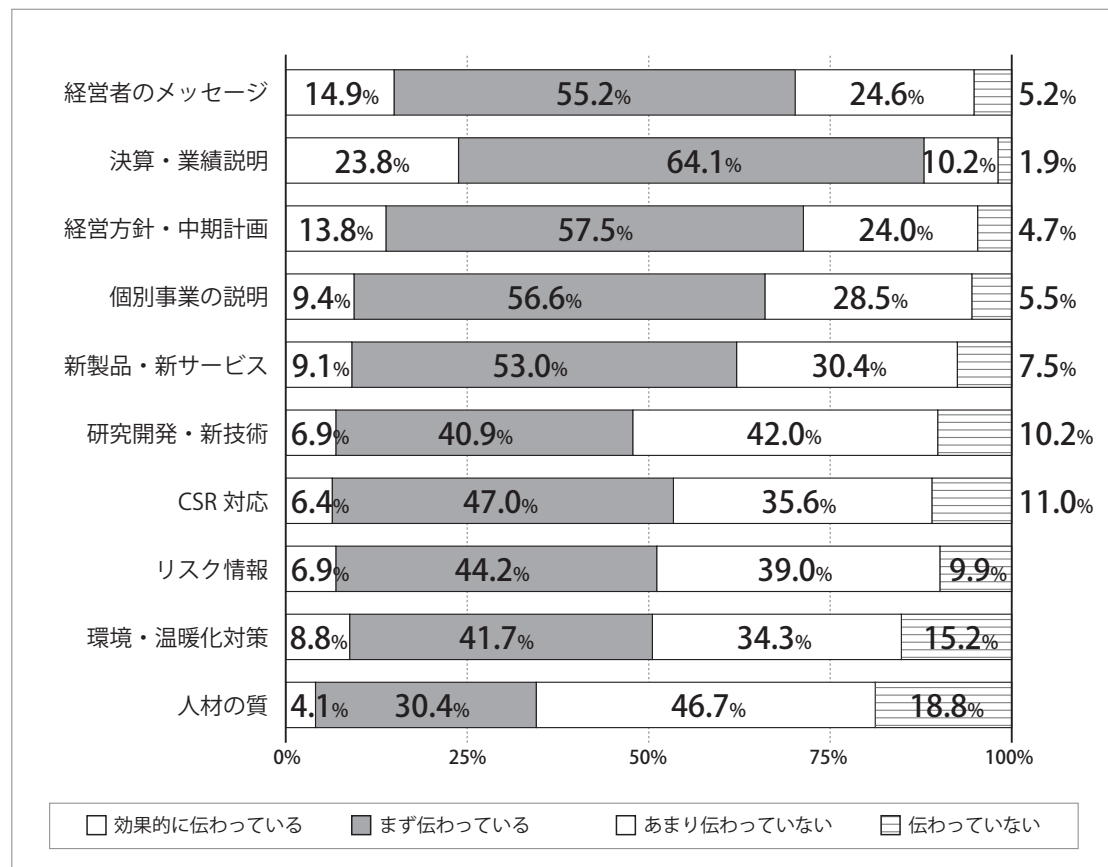


(7) IR活動のなかで、それぞれのテーマについて、どの程度効果的に伝えられているとお考えですか。(テーマ毎に単一回答)

「効果的に伝わっている」「まず伝わっている」との回答が最も多かったのは「決算・業績説明」(双方の合計 87.9%) であり、「経営方針・中期計画」(同 71.3%) がこれに次ぐ。

その一方で、「伝わっていない」「あまり伝わっていない」との回答が最も多かったのは「人材の質」(双方の合計 65.5%) であり、「研究開発・新技術」(同 52.2%) がこれに次ぐ順となっている。

【図表7】

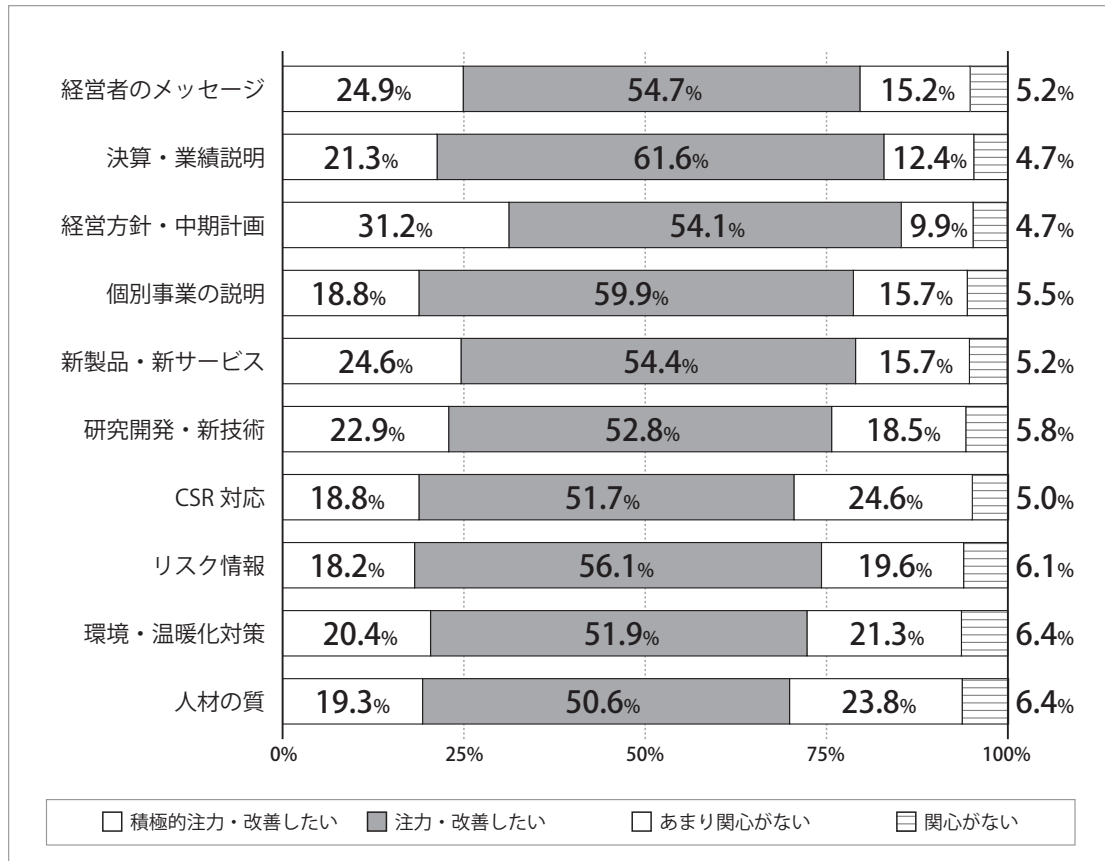




(8) IR活動のなかで、それぞれのテーマについて、今後どの程度取り組みを改善したり、注力したいとお考えですか。（テーマ毎に単一回答）

「積極的注力・改善したい」「注力・改善したい」との回答が最も多かったのは「経営方針・中期計画」（双方の合計 85.3%）であり、「決算・業績説明」（同 82.9%）、「経営者のメッセージ」（79.6%）がこれに次ぐ順となっている。

【図表 8】



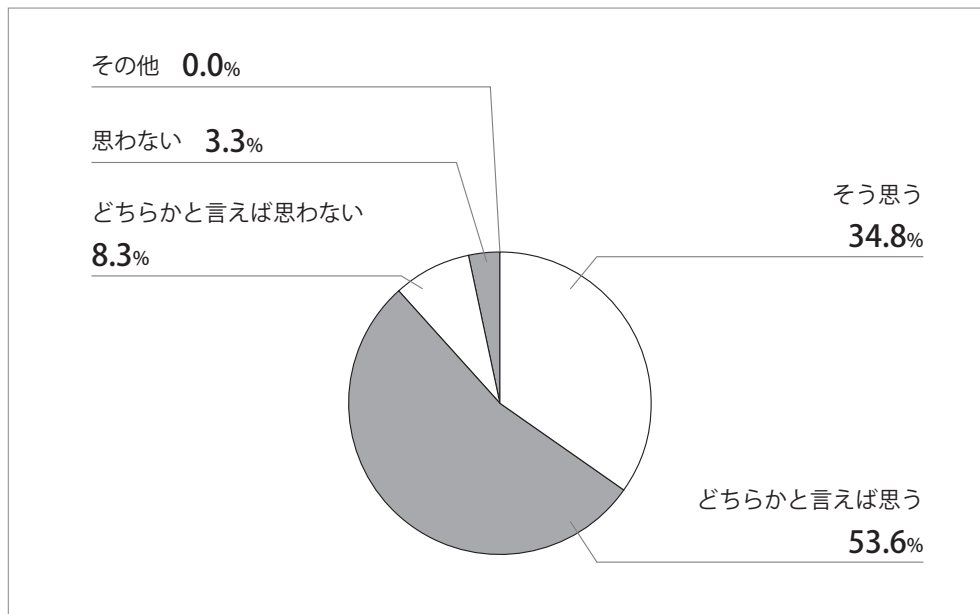
(9) 決算説明以外の発信内容で、ブランドイメージや暖簾、知財や技術力、CSRへの対応、危機やリスクへの対応など、いわゆる企業の持つ「無形資産」について、今後伝える必要があると思いますか。(単一回答)

「どちらかと言えば思う」(53.6%)が最も多く、以下「そう思う」(34.8%)、「どちらかと言えば思わない」(8.3%)の順となっている。

「どちらかと言えば思う」と「そう思う」を合わせると、88.4%が無形資産を伝える必要があると回答している。

		実数	%
全体		362	100.0
01	そう思う	126	34.8
02	どちらかと言えば思う	194	53.6
03	どちらかと言えば思わない	30	8.3
04	思わない	12	3.3
05	その他	0	0.0

【図表9】

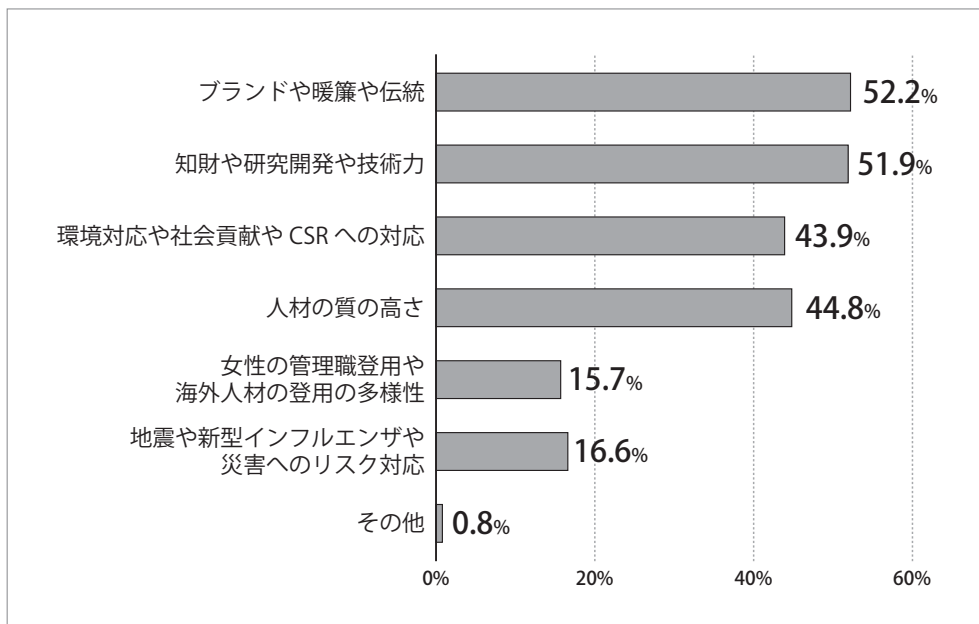


(10) いわゆる無形資産について、貴社ではこういった無形資産が重要とお考えですか。(複数回答)

「ブランドや暖簾や伝統」(52.2%) が最も多く、以下「知財や研究開発や技術力」(51.9%)、「人材の質の高さ」(44.8%)、「環境対応や社会貢献やCSRへの対応」(43.9%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	ブランドや暖簾や伝統	189	52.2
02	知財や研究開発や技術力	188	51.9
03	環境対応や社会貢献やCSRへの対応	159	43.9
04	人材の質の高さ	162	44.8
05	女性の管理職登用や海外人材の登用の多様性	57	15.7
06	地震や新型インフルエンザや災害へのリスク対応	60	16.6
07	その他	3	0.8

【図表10】

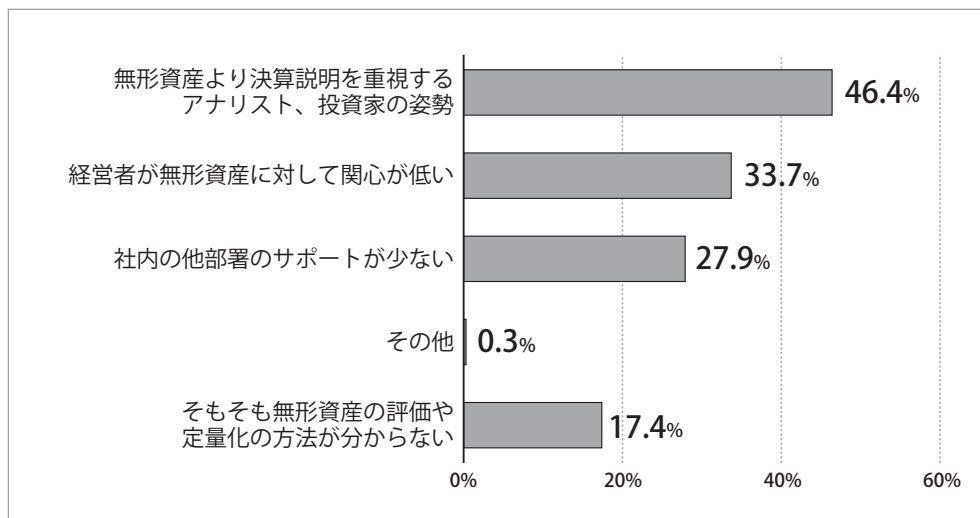


(11) 無形資産を効果的に投資家に伝えるうえでの課題は何だとお考えですか。(複数回答)

「無形資産より決算説明を重視するアナリスト、投資家の姿勢」(46.4%)が最も多く、以下「経営者が無形資産に対して関心が低い」(33.7%)、「社内の他部署のサポートが少ない」(27.9%)の順となっている。

		実数	%
全体		362	100.0
01	無形資産より決算説明を重視するアナリスト、投資家の姿勢	168	46.4
02	経営者が無形資産に対して関心が低い	122	33.7
03	社内の他部署のサポートが少ない	101	27.9
04	その他	1	0.3
05	そもそも無形資産の評価や定量化の方法が分からない	63	17.4

【図表 1 1】



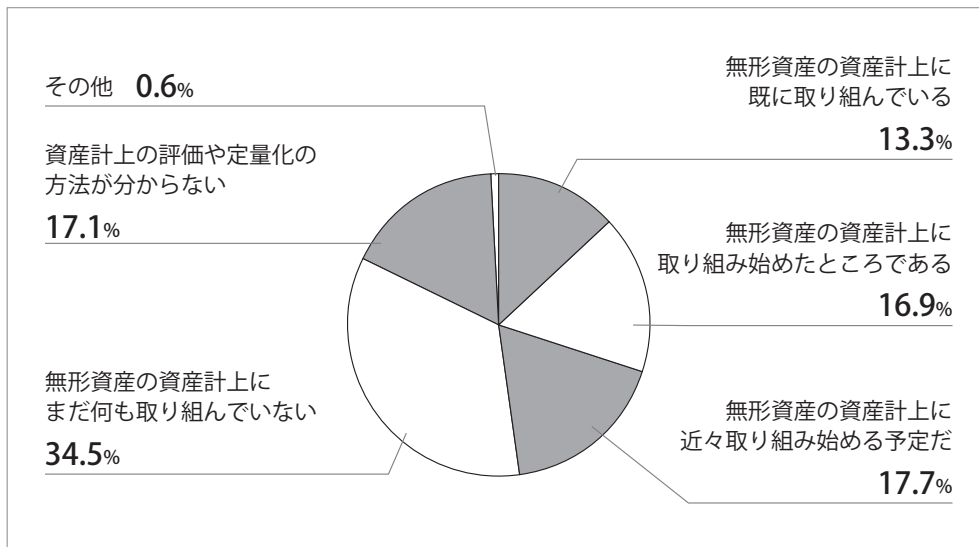
(12) 会計基準の国際化について最近頻繁に話題になるようになりましたが、例えば知財や研究開発や技術力といった無形資産の資産計上について、貴社の取り組み状況をお知らせ下さい。(単一回答)

「無形資産の資産計上にまだ何も取り組んでいない」(34.5%)が最も多く、以下「無形資産の資産計上に近々取り組み始める予定だ」(17.7%)、「資産計上の評価や定量化の方法が分からない」(17.1%)の順となっている。

「無形資産の資産計上に既に取り組んでいる」は13.3%という回答にとどまった。

		実数	%
全体		362	100.0
01	無形資産の資産計上に既に取り組んでいる	48	13.3
02	無形資産の資産計上に取り組み始めたところである	61	16.9
03	無形資産の資産計上に近々取り組み始める予定だ	64	17.7
04	無形資産の資産計上にまだ何も取り組んでいない	125	34.5
05	資産計上の評価や定量化の方法が分からない	62	17.1
06	その他	2	0.6

【図表 12】



**(13) 現在の I R 活動の悩み・課題・理想に関する率直なご意見をお聞かせ下さい。(自由記述)****■経営者関連**

- ・経営者が I R 活動について理解がない。
- ・経営者の I R 活動に対する意識が低いと感じる。

**■社内関連**

- ・社内での I R の認知度が低い。
- ・専門部署の仕事と思って、他部門は適当な対応である。
- ・上部組織が勝手に取り組み、全事業所に強要するだけの活動のように思う。

**■アナリスト関連**

- ・すぐに数字の結果を求めるアナリストが増えてきた。
- ・アナリストから本質ではなく、細かい質問が多すぎる。
- ・そもそも関心を寄せられるのは決算だけであり、発表する側の期待とずれている。
- ・事業分野が多様なのに、同じ業種のなかで横並びに比較するアナリストの評価方法が疑問。

**■個人投資家関連**

- ・なかなか個人株主が増えない。
- ・個人投資家が少なく流動性が低い。
- ・アナリストだけでなく、個人投資家や消費者も重視した I R 活動が理想。

**■株価関連**

- ・業績と株価が連動していない。
- ・I R 活動が株価に反映しにくい。

**■費用対効果・効果測定関連**

- ・定量的に効果が捕らえられる仕組みが必要。
- ・費用対効果がわからず社内で認知されない。
- ・効果を定量的に測定できないので、I R の予算を社内で承認させるのが難しい。

**■開示関連**

- ・四半期業績の開示で、人的、コスト負担が大きくなってきている。
- ・四半期決算は自社経営にそぐわない基準であり、財務上から競争力がそがれている。
- ・四半期決算発表をなくし、その企業の実態に合った多面的な I R ができればよい。

**■無形資産関連**

- ・ナレッジの資産価値を公開したい。
- ・自社が、「手づくり」の製造業なので、そこで働く人材の質が重要な資産だが、現在の I R 活動では正確に伝わっていない。
- ・環境や C S R に対する取り組みを積極的に発信し、企業の付加価値になること。
- ・決算だけでなく、無形資産を含めて企業を全体的に理解してもらえる I R 活動が理想。
- ・無形資産のような非財務情報を適切に評価できる方法が必要。
- ・独自技術や付加価値に対して権威ある第三者による評価付けが必要。

- ・人材等を評価する第三者機関があったほうがいいのではないか。
- ・非財務情報に対して、マーケットがどの程度興味を持っているのか分からない。
- ・企業価値を高めるために人の質を向上させ、取り組ませたい。

■ネット、ホームページ活用関連

- ・ウェブを効果的に活用したい。
- ・タイムリーな情報開示をネットの活用で行いたい。
- ・ネットで双方向のコミュニケーションを図りたい。

■ネット、ホームページ活用関連

- ・中長期的視点での魅力度のアピールを効果的に織り込んでいくことが大切と思う。
- ・短期的志向に走りがちな機関投資家に対するIR活動よりは、中長期的に会社活動を理解・支援して下さる個人投資家のIR活動を重視していきたい。
- ・中長期目標の提示と現時点の到達度や環境の変化に対するタイムリーな修正を示し、投資判断がしやすくなるようになればいいと思う。

以 上